

**佐藤浩雄議員**

- ◆ **佐藤浩雄** 委員 わが県の位置づけというか、大事な機能の一つに、北東アジアのゲートウェイということがありまして、今回も予算説明書を見ると、国際課を中心に国際関係の具体的な課題というか事業がたくさん載っています。わが県の重要な機能ですから大変いいことだと思っておりますが、今回初めてですけれども、国連軍縮会議負担金が新規事業になっているわけです。わが県の拉致(らち)事件なども重要な課題でありますから、こういった国際会議に対して私たちの方からどう具体的に働きかけていくのかということは非常に重要な課題ではないかなと思うのです。そうであれば予算が負担金というのはどうも、これは国レベルの会議なのでしょうけれども、どういふことで負担金という名称になるのか、少し理解できないのです。そういった問題と、例えば拉致問題の支援に係る予算も平成21年度は700万円で前年度と同じわけですけれども、例えばこういう国際会議に向けてどのように取り組んでいくのかということは、わが県の主体的な取組を問われるところだと思っております。そういった点については、どういふふうにお考えでしょうか。

**国際課長**

- ◎ 国際課長 来年度に誘致が決まりました国連軍縮会議についての御質問でございますけれども、負担金というのは県と新潟市が協力してやりましょうということで、負担金ということになっております。特に新潟市の方は非核平和都市宣言をしている関係もあって、新潟市がどちらかというと前面に出て、県もそれをバックアップして一緒にやっていきたいと思いますということで、負担金ということと考えております。

それから、もう1点お話のありました拉致問題との関係でございます。国連軍縮会議ということではございますが、当然いろいろな国の平和だとか、あるいは安全もありますので、私もこの内容についてなかなか関与できないわけですけれども、それに合わせて拉致問題についても同じ会場でパネル展をやるなど、今、検討しているところでございます。そういう形で、こういった場を使って拉致問題についても啓発といいますか、国際社会の理解も必要でございますので、いろいろな理解・協力が得られるよう少し考えていきたいと思っております。

**佐藤浩雄議員**

- ◆ **佐藤浩雄** 委員 今も北朝鮮をめぐるは、いろいろな緊迫した状況にあり、また、拉致家族が金賢姫と会うとか国際的な話題がありますが、国際社会の中においては拉致問題みたいなものは取るに足らないというか、そういう認識がままあって、新潟県民が拉致をされているという絶対に許すことのできない国家犯罪に対する認識が、国際社会においては希薄だと非常に残念に思うのです。わが県は一つの大きな国家に匹敵するぐらいの力はあると思うのです。そういう面からすれば、当然こういう国連軍縮会議というものに対する具体的な目的、国際会議ですから日本国家としてどうするかは政府が当然やっていることですが、我々がこの会議を誘致したのですから、当然目的があって、単なる経済的な効果だけをねらうことではないと私は思うのです。北東アジアのゲートウェイとしてのわが県の機能を全面的に発揮するばかりではなくて、本来、私は自治体外交権は確立すべきだと思っておりますから、特に経済や文化の方面ではしっかりとそういう関係を築くべきだし、新潟県のやってきた対ロシアあるいは韓国などの、例えば帰国船などの歴史的な経過を見れば、わが県が果たすべき役割は非常に大きいと思うのです。

地方自治体はこれから道州制などもあり、我々はしっかりと自立をしていかねばならない。財政でも言うべきことはいっぱいあるということで、今回、知事は国や中央銀行に直接提言をしているわけですから、我々としても外交の問題に対しても当然、意見を言っていかなければならないと思うのです。そういった点では、こういうチャンスを非常に大切にすべきで、戦略的に北東アジアの外交を考えるうえで、この会議をどう位置づけるかということをやはり考えてやるべきではないか。そういった考え方がなくて、単に負担金950万円を盛ればいいということではないと私は思うのです。先ほどの答弁では、今、検討中みたいですが、もうできているのではないかなと思って、完成して誘致しているのではないかなと思っていたのですが、その点はどうか。

**国際課長**

- ◎ 国際課長 すみません。少し答弁が言葉足らずで誤解を与えたようでございますけれども、当然、

国連軍縮会議は国際会議ということで、一つは先ほどから出ているG8労働大臣会合というものの流れの中で、北東アジアのゲートウェイを目指すというために国際会議もきちんと継続的に誘致をしていかなければいけないということで、国連軍縮会議の誘致ということも活動として進めたわけでございます。国連軍縮会議の中身の話になりますと、どういうテーマになるのかは国連の軍縮部の方が決める話になりますので、その内容までは我々の方では分かりません。ただ、先ほど言いましたように、新潟市も非核平和宣言都市というようなこともやっておりますし、やはり新潟で開く意味といいますか、新潟が北東アジアのゲートウェイ、また、当然、国際協力とか平和とか、そういう要の位置を持っているということは念頭に置いて、こういった会議の準備といいますか、運営を進めていかなければいけないと思っております。この会議の中身以外にも新潟の情報発信ができる機会はあると思っておりますので、拉致問題も含めて、そういう場でうまく情報を発信していければと考えているところでございます。

#### 佐藤浩雄議員

- ◆ **佐藤浩雄** 委員 国際社会は確かに国家が外交の主体ですけれども、今やNPOが捕鯨の問題で外交という中に登場してきているように、国際社会はすでに国家が主体の世界ではないです。法人もあればNPOもあれば、今はいろいろな関係が国際社会の主体を担っているわけです。地方自治体はその主体を担うことは、今、当たり前なのです。だとすれば、この国際会議に新潟県がどう主体的にかかわっていくのかが問われていると私は思うのです。この会議を誘致するにはそういう展望があって、極端に言えば、拉致問題だったらここに参加している人たちみんなを新潟県が招待してパーティーを開いて、知事がこういう問題をアピールするとか、そういうことがあってもいいでしょう。そういうことを、私は当然考えるべきだと思うのです。そのためには予算があまりにも少なすぎると私は残念に思うのですが、ほかの、例えば拉致問題の予算を使うなど方法はいろいろあると思うのです。とにかく国際社会の主体は、すでに国家ばかりではない。個人まで含めて、そういう主体的な役割を果たす時代になっているわけですから、自治体外交権を確立する意味も含めてですが、わが県の外交上の最重要課題である拉致問題を解決していく意味でも、そういう戦略的な位置づけをしっかりと取組を進めるべきではないかと。その点、もう少し深くというか、突っ込んで、位置づけを明確にして、県民にも分かりやすくやっていただけないかと思うのですが、どうですか。

#### 知事政策局長

- ◎ 知事政策局長 委員御指摘の点でございますが、やはり外交の一元化というのは当然必要なかなと考えております。私どもは北東アジアの玄関口ということで中国、それからロシアや韓国等々と交流をしておりますけれども、それは外交権という権利に基づくとかではなくて、友好交流を着実に推進することによって、それが経済につながったり、そういった発展が図られるということで理解しております。必ずしも権利だからという旗を掲げていなくてもいいのかなど。外交の一元化というのは必要だと思っております。一方、新潟県は拉致問題を抱えているところであります。先般の全国知事会でも国の方にも物を申し上げましたが、そういったところでも、やはり国際社会において拉致問題をきちっと理解していただくということが、全体の拉致問題の解決に必要だということでお話をさせていただきました。また昨日、外国の記者の方々がお見えになられましたので、私はあいさつをさせていただきました。その中で皆さんのペンの力を借りてというお話をさせていただきました。昨年のG8労働大臣会合の場においても、拉致問題の外国語のパンフレットを配付するという形で理解を求めたところでありまして、当然、今後、国際会議をする中でそういった努力を引き続き粘り強くやっていくことが私どもの務めだと考えております。

#### 佐藤浩雄議員

- ◆ **佐藤浩雄** 委員 ぜひ期待をしております。それこそ帰国船問題から、サハリンですとか空港の援助についてもやった歴史がありますし、自治体として、そういう建設に当たって新潟県が援助をしたり、あるいは建設の保証をしたり、そういうことで国境を越えて平和、友情を築くということを新潟県はずっとやってきたと私は思うのです。これはもう、ある意味では国際社会の主体ですよ。国境を越えてそういう約束事をいろいろしてきているのですから。そういう任務を私たちは担っているという自覚をして、どうのこうの言われようと、実績はあるわけですから。今度は自覚をして取組を進めていただきたいと思うのです。

私は国連軍縮会議は非常に大事な場だと思っておりますので、いろいろな外国の方々に情報提供をするというのは当然のことですが、それこそ知事、あるいは新潟市長が中心になって、外国の参加者に呼び掛けてパーティーでも開いて、さらに友好関係を築くという外交関係があってもいいと思いますよ。私たちがしっかりとした姿勢を、新潟県民の心や愛情を国際社会に向かってアピールする。サッカーの世界大会のときも、すごく高い評価を受けたじゃないですか。新潟県民の人間性についてはだれでも、おじいちゃん、おばあちゃんでも「駅はどこだ」と聞けば案内してくれると、すごく評価が高かったです。そういうことからすれば、新潟県民の温かい人間性は、すごく評価を受けると私は思うのです。そういうことを全体として環境を作って、この会議に向けて知事が先頭になってやれば、非常に大きな効果が出る可能性があると思っております。ぜひ、そういう面でもう一步積極的に取り組んでいただきたいと思いますので要望しておきます。よろしく申し上げます。

それで同じようなことですが、議案審議資料に新潟県大連経済事務所費とかいろいろな予算がありますが、北東アジア交流戦略費が2,145万円の予算で、ハルビンにも連絡員を置くとか、これを見ただけでも8項目ぐらいあるのですよね。どれも重要な課題であるのに、一つの事業にしたら200万円程度になるのかなという感じがして、中身をよく分からないで私はしゃべっているから、とんちんかんなことを言っているかもしれませんが、やはりわが県がこれから北東アジアのゲートウェイとして戦略的にいこうとすれば、もっと積極的な、大胆な中身があってもいいのではないかと。例えば新潟県ハルビン連絡員設置事業は、それこそ連絡員を一人置くだけでも200万円や300万円はかかるのではないのかなという感じがします。そういうことからすると、あまりにも予算規模が小さくて、全体の政策効果が表れるのかと。やはり、どうせやるなら効果が表れるように大胆にしたらどうかと。どれを見ても予算規模が小さいような気がするのですが、その辺は検討されたのですか。

#### 国際課長

- ◎ 国際課長 北東アジア交流戦略費は、北東アジアのゲートウェイを目指したいというわが新潟県の大きな施策目標に向けて、いろいろな事業があるわけですが、その内の一つの事業であることは間違いございません。そのためには、内容的にもいろいろなことを仕掛けていかなければいけないということで、事業もかなり細かくなっております。財政状況が大変厳しい中で、できるだけ効果が上がるよう、いろいろ内部で議論をして予算を積み上げて、これぐらいで、ともかくやっついこうと、成果が出るだろうということで、県議会に予算を御提案しているという状況でございます。

#### 佐藤浩雄議員

- ◆ 佐藤浩雄 委員 去年、私も黒龍江省に県議会の代表で行かせてもらって大変勉強になったのですが、黒龍江省と広東省へ行ってみてすごく認識したのは、シベリア鉄道の改革と図們江開発について向こうの人たちと議論して、後背地にある大連とかハルビンに実際に行ってみて、そこには新潟県から進出している大変な企業群があって、別の機会には直接、工場に行ってみました。わが県からすれば、これからシベリア鉄道の改革が54兆円か57兆円ぐらいかけて行われると、新潟東港あるいは新潟港全体のこれからの考えると、黒龍江省や中国東北部は非常に重要なことと。それだけにわが県は、やはり力を入れて大連経済事務所のことから、すべて重点的な予算配分が必要ではないかという感じがするのです。当然、それに伴う内容も重要なわけですが、三角航路も試験運航の段階ですが、今年中に何とか実現してほしいと思います。そうなれば、この地域は一層重要になってくると思うのです。そういった点なども十分に検討されているとは思いますが、北東アジアのゲートウェイとしてのわが県の役割ということからすると、予算規模全体が小さいのではないかと。政策効果がどう表れるのかと心配なぐらい小さすぎると思うのですが、どうですか。

#### 知事政策局長

- ◎ 知事政策局長 委員御指摘のとおり、北東アジアの玄関口になることについては、県にとって大きな重要な課題だと思っています。今、委員から予算規模の話が出ましたけれども、先ほど言いました北東アジアの玄関口を目指すために、どうやって戦略的に総合的に事業立て、政策立てをしていくべきかということで、いろいろ議論をさせていただきました。今、予算審議資料に載っている予算は国際課で所掌している部分でありまして、国際交流については交通政策局や産業労

働観光部や農林水産部と、さまざまな部局がかかわるところでございますので、そこをどうコーディネートしていくのかということが私どもの仕事だと思っています。国際交流の歴史は長いわけですが、やっとなら中国東北部、それからロシア極東が非常に活力が出てきて発展する中で、今まで新潟県が努力してきた部分の具体的な果実が、そろそろ形になると思っていますので、単純に何周年交流事業という形の、訪問費何百万円ということではなく、いろいろ経済の面で手だてができるような形で議論を重ねたいと皆さんにお諮りしている予算だということによって御理解を賜ればと思っています。

#### 佐藤浩雄議員

- ◆ **佐藤浩雄** 委員 分かりました。黒龍江省へ行って向こうの方と議論して、本当に港から30キロメートルぐらいで中国国境へ行けるわけですから、わが県から行った場合に、大連回りに比べたら大変大きな経済効果が私にはあると思います。それだけに日本海を平和な海にして、そういう関係をしっかり築くために、いろいろなことも考えて予算を組んだというのですから、ぜひ、実となるようにお願いします。

それから、もう1件だけお伺いしたいのですが、この前、耐震強度偽装事件における県の責任を認めた判決が名古屋地方裁判所に出ていますね。私は総務文教委員会で前に少し質問したことがあるのですが、朱鷺メッセ連絡デッキ崩落事故の裁判がまだ継続していて、これは5年か6年たっていますね。朱鷺メッセ連絡デッキは自然落下したのです。そういう面から、悪質さから言ったら朱鷺メッセの方が重大な問題です。しかも、私が質問したときの答弁は、最初は「事故調査委員会に迷惑がかかるから、構造計算書はあるかないか分からない」なんて言ってみたり、次には「最初はあるのだが、間違っていたので訂正し直したら、しまいには最初の構造計算書がなくなった」なんて、2年半そうやって逃げてきましたね。経過を考えていきますと、私たちの質問に対する答弁書を受け取っているのは、以前は財政課でしたが、今は皆さんのところですから、この前も、だれがそうやって、こうやったのかということをはっきりさせて、改めて総括すべきだということを申し上げておきました。それこそ自然落下したのですから、もう耐震強度偽装事件なんてものじゃないわけですから、現場には構造計算の専門家も配置しなかったわけですから、極めて計画的で悪質だと私は思う。「橋梁(きょうりょう)&都市PROJECT」という雑誌がいつも送られてくるのですが、その雑誌を見ると、5年たってもまだ裁判の入り口で、論点整理も何もされていないと。県民の記憶からなくなるまで時間稼ぎをしているのではないかなという気がするのです。そんな裁判をだらだらとやっておいて、一方ではこういう判決が出て県の責任が問われているときに、こういう態度でいいのかなと私は本当に思うのです。以前は港湾空港局で、当時の局長は今の教育長ですけれども、しまいにはああいう人たちもいなくなる。やはり責任を明確化する意味でも、裁判を続けていいのかということが知事政策局として問われるのではないかなと思うのですが、どうですか。

#### 政策課長

- ◎ 政策課長 朱鷺メッセ連絡デッキの崩落事件の裁判についてということでございますけれども、当事者間でいろいろと主張や立証ということを行っているんだらうという推察はできますが、詳しいことは事情を承知しておりませんので答弁は差し控させていただきます。

#### 佐藤浩雄議員

- ◆ **佐藤浩雄** 委員 私は細かいことを言っているのではないのです。それこそ裁判を続けるか、やめるか、あるいはどうするのかという方針は、正に知事の重要な問題だと思います。県が耐震強度偽装を見抜けなかったということが罪に問われる。構造計算書がないのです。簡単に言えば、加害者が被害者を訴えているようなものですよ。いいですか、そんな論点整理なんていうのは専門家がやればいいことですけれども、根本的な問題が問われていると思うのです。やはりそういうことをしっかりと、行政の責任において明確化していかなければならないと思うのです。そうでないと、こういう事件がまた起きますよ。今回、知事も10分の1だけ給料を減らしますが、たしかあのときの知事も10分の1だけ減らしましたね。そんなレベルで済むような問題ではないわけでしょう。あそこに、もし人がいて死んでいたらどうしますか。幸いその人が逃げられたからいいようなものだが、いたんだよね。ゆっくり落ちて、逃げられたからいいようなものだが。そういうことを考えると、もう背筋が寒くなるわけですよ。やはり本当に政治責任というか、行政責任という表現がいいのか分か

りませんが、やはりこういう判決が出たら、わが方もこれでいいのかと真剣に考える時期に来ているのではないですか。私はやはり考えるべきだと思います。県民の記憶がなくなるまで時間稼ぎをして待つような姿勢はやめるべきだ。やはり検討の段階に入っていると思いますよ。裁判になって5年か6年たっているでしょう。雑誌を見ると論点整理も何もできてないそうですから、5年たっても、まだ裁判の入り口。こんな裁判も珍しい。そんなことに金をかけて、だらだらとやっているのですか。やはり、その辺は行政責任として、大きな観点から判断する時期に来ていると思うのです。どうですか。

### 総括政策監

- ◎ 総括政策監 知事政策局長の前に一言申し上げます。委員御指摘のとおり、正に論点整理の最中で、結審してございません。それぞれの立場を主張し合っている中で、加害者が被害者を訴えるというような話もございましたけれども、いろいろな意味で議論が整理されているのかなと思っております。そういう意味で県が、港湾空港局から今は交通政策局ですけれども、いろいろ検討したうえで司法の場をお願いしているということでもありますので、時間稼ぎではなく、まず司法の場できっちり御議論いただいて、その結果をまた受け止めて必要な対応を取るべきかなと、私は今、委員のお話を伺って思いました。

### 佐藤浩雄議員

- ◆ 佐藤浩雄 委員 びっくりしましたけれども、論点整理がまだされていないのです。だから、そういうことで行政側の責任を逃れているのはよくないでしょう。構造計算をしていなかったんだから。安全確認をしていなかったんだから。安全確認をしないで新潟市に計画通知をしてしまったんだから。それで造ったんだから。そして、雨も風も雪も何もないときに落ちたんだから。たった一人、人がいたけれども、非常に深刻な犯罪ですよ。裁判は裁判でいい。少なくとも、この中身を考えたら、やはり皆さん方で真剣に整理する問題はいっぱいありますよ。当時の事故調査委員会から出されている調査結果も、内容的にはほとんど入ってない。それからすれば、皆さん方で検討すべき課題はたくさんあると思います。名古屋地方裁判所の判決が出てちょうどいい機会だから、県の行政責任が問われているわけですから、もう一回真剣に検討していただけないか。

### 知事政策局長

- ◎ 知事政策局長 加害者と被害者の関係だとか、時間延ばしだとか、犯罪だとかという言葉が委員から出ています。私は詳細は承知しておりませんが、そういうフレームだったのかと首をかしげて、分かりませんが、これだけは言わせてもらおうかなと。当事者が今、論点整理をやっているところですので、その辺のところをきっちり整理しないままに、まあまあという形は、やはりよろしくないのではないかと考えております。委員のような御主張もありますでしょうし、県の主張もあります。それをきちんと判断していただいて、その後の対応ということで考えるのが妥当なのかなということで理解しております。

### 佐藤浩雄議員

- ◆ 佐藤浩雄 委員 私は2年半にわたってやってきました。しかし、答弁一つをとっても、構造計算書はあるのですか、ないのですかという単純な質問に対して、2年半も答えないできたわけです。その間、私はありとあらゆるところからいろいろなことを言われました。質問をやめろだの何だのと電話がかかってくる。大変な圧力をかけられてやっているわけです。だから、そういう面からしたら、そんな単純な答弁ではないのです。皆さんも大変かもしれないけれども、二元代表制で互いに健全な県政を発展させるためには必要なのです。そういうことを前提にして私は質問しているのです。細かいことを言っているということではなくて、県政を発展させるために、知事サイドと県議会サイドは相互に議論をチェックし発展させていくことが大事なのであって、一つ答弁するにも、そういうふうに疑問視されるようなことをずっとやっていたのでは、本当の意味で二元代表制は発展しないではないですか。そのとおりですよ。経験してみなさい、分かるから。司法が言っているのも、そういうことでしょう。そういった点も積極的に解明するという姿勢を見せてほしいのです。これで終わりますから、どうですか。

### 知事政策局長

◎ 知事政策局長 何回か、この件については御質問を受けています。県はそれぞれの時点で適切な判断をし、県議会に対しても適切な説明を行っていると考えております。いずれにいたしましても二元代表制という形ですので、建設的な議論を通じて県政の発展のために頑張っていきたいと考えております。

**佐藤浩雄議員**

◆ **佐藤浩雄** 委員 適切な判断ではなかったではないですか。何を言ってるのですか、その都度の答弁は。構造計算はなかったではないですか。これが真実でしょう。なぜ最初から真実を言わなかったのですか。それが適切な判断ですか。きちっとやってよ、お願いしますから。それ以上のことは言わないから。そんなやり方をしていれば二元代表制は本当に健全に発展しない。お願いしますよ。終わります。